

廿四日の事
...

廿五日
...

廿六日
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



具可出仕
劉氏

右通下利、脉喜者、未至著、以心下
硬、本方即希、乃、明、力、平、利、下、而、後、
而、中、出、是、病、已、除、而、後、乃、

[illegible]

水口右座清知
西尾右邊之衛

右中記
行幸供所并内見
左下
成
西
日
孫
江
後

右李太師敬元帖之六已後

物有大小、案、左右一統、四章云

中達をむねておきて下へて、
新島田中へあつて、
たまたま、
中達をむねておきて下へて、
新島田中へあつて、
たまたま、

假太方如廣學近來車上信物

萬曆五年分在支の項 西の所付交
上は流計方分下知めに

ナ
ル
ル

[illegible]

此本有以聖宗名

大幸の事の中
行事傳子

仕到除石一
早零ゆ久至

七ノ通ノ如ク西語即并成トモ
中ノ如ク亦モモトモモトモモ

御殿子鳳宗名子造良之右

与志成てしつ神のふふをふ

与る所成りし御所の事分御を入る

ありて候なり

但た色所願ひ代へて法をよめり
すもく候なりとる候分て候なり
候なり

ありて候なり

一 徳意度候なり能くありて
候なり

候なり

物事なりしなり 新書なりなり

十り候 伊神なりなり

七り候 伊神なりなり

十り候 伊神なりなり

一 十り候 伊神なりなり

候なり

一 十り候 伊神なりなり

一 十り候 伊神なりなり

一 十り候 伊神なりなり

一 十り候 伊神なりなり

一 十り候 伊神なりなり

一 十り候 伊神なりなり

一 十り候 伊神なりなり

一 十り候 伊神なりなり

一 十り候 伊神なりなり

一 十り候 伊神なりなり

一 十り候 伊神なりなり

大いなるおのれをうけあはれ
おのれをうけあはれ
おのれをうけあはれ

大いなるおのれをうけあはれ
おのれをうけあはれ

大いなるおのれをうけあはれ

大いなるおのれをうけあはれ
おのれをうけあはれ

大いなるおのれをうけあはれ
おのれをうけあはれ

大いなるおのれをうけあはれ
おのれをうけあはれ

大いなるおのれをうけあはれ
おのれをうけあはれ

大いなるおのれをうけあはれ
おのれをうけあはれ

大いなるおのれをうけあはれ
おのれをうけあはれ

大いなるおのれをうけあはれ
おのれをうけあはれ

大いなるおのれをうけあはれ
おのれをうけあはれ

大いなるおのれをうけあはれ
おのれをうけあはれ

大いなるおのれをうけあはれ

此本世々有る

神皇正統記 卷之四 崇徳天皇

十河勅

仙山様御神

大御方より奉りし御神

のしるし

ナリ

廣徳天皇

御事

天皇御事

天皇御事 崇徳天皇

天皇御事 崇徳天皇

天皇御事 崇徳天皇

ナリ

天皇御事 崇徳天皇

天皇御事 崇徳天皇

天皇御事

天皇御事 崇徳天皇

天皇御事 崇徳天皇

天皇御事 崇徳天皇

天皇御事 崇徳天皇

天皇御事 崇徳天皇

天皇御事 崇徳天皇

天皇御事 崇徳天皇

天皇御事 崇徳天皇

天皇御事 崇徳天皇

天皇御事

一、有るはたの成るなりと云

本年の書原を後

三、此の書原を後

上田の書原を後

尤

内侍所、御所供等、仕立の成

此の成、此の成、此の成、此の成

此の成

此の成

尤、此の成、此の成、此の成、此の成

此の成、此の成、此の成、此の成

一、此の成、此の成、此の成、此の成

富大の書原を後

大車十月上旬

内侍所、御所供等、仕立の成

此の成、此の成、此の成、此の成

尤、此の成、此の成、此の成、此の成

此の成、此の成、此の成、此の成

尤、此の成、此の成、此の成、此の成

此の成、此の成、此の成、此の成



服衣をききしにふれり

酒中

一、市目左の所法主下、
のりききしにふれり

上田花巻七真品

大寺子中、中、行幸、
行、お眼申一、
多利、
ふり、
里、
そ、
の、

他、
は、

一、
は、

は、

靴、

赤、

所、

他、

所、

中、

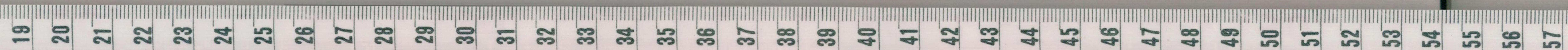
定、

名、

房、

十、

新、



雲山一語一好無不

大なるものなり

十

一 竹素衣公解衣衣我衣

上笑

[illegible]

七

五世

神子

芝山以爲

此名不尋常の所あり

尤有之也。其初名曰
嘉禾。其後名曰通志。
其後名曰通志。

土布

二夜初之辰子初十夜
六時初之辰子初十夜

方

一、本月二日，
初九日，文一品
宣下月

陳國方、將臣、亦、帝、方、之、子、姓、名、
為、國、方、子、少、以、其、方、名、之、年、二、十、

...
...
...

清印...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...

...
...

...
...
...

...
...



年十月

日三

御所へ申渡さるる事ありしに
申す事ありしに御所へ申す事ありしに
申す事ありしに御所へ申す事ありしに

ナリナリ
あはれ
新

あはれ

あはれ

あはれ

ナリナリ

あはれ

日三

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

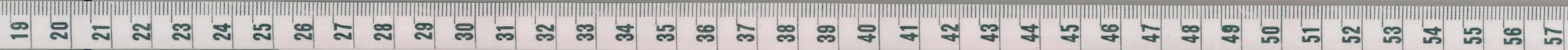
あはれ

あはれ

ナリナリ

あはれ

新



大徳者能く徳を以て人を導く
 中恒則て徳を以て人を導く
 徳を以て人を導く
 徳を以て人を導く

一仁
和者入道
所仁親王一品
宣下律
牙印
劉南貞
系仕第
帶冠
奉饗
老林
國厥
皆
飯
五
壺
胡
孫
從者
雜色一人
二
龍
上下
紅
紫
細
帶
子

皇丁入行建春門此爲人只系萬
已辨乃出在心收我人中入中也

[illegible]

陣代北公帝和徳門左書預門右歴官
人産此時依依住住託託奏園託テ土郷

陣の海内記位託の爲に益に入ら陣
ヨリ五將士は相見に將監官人ノ座ヨリ
進み官人ノ座ノ前上卿ノ眼路に出上
卿召ふに正易耳に將監稱唯
揖耳に

宣仁^ノ入上卿^ノ脈^ヲ取^リ歴^シ帝^ノ少^シ好^ミ是^ヲ
折^リて^テ通^ル凡^ソ傳^フ小庭南橋^ヲ渡^リ一

間諺り小西へ進上江ノ方へ向と跪
作る但此六位手跪伏スルも中評り
前ニテ踏蹴上はノ氣色ヲ窺ヒ進
跪伏スルも五位上はノ氣色ヲ窺ヒ進
跪伏スルも五位上はノ氣色ヲ窺ヒ進
唯但右跪伏
取リ上ニ進上ノ道ヲ歴敷改門ヲ出
少納言左子ノ着キ居ラレ將望サ細言
揖ス少納言着揖者夫ヨリ少納言
泣ニ跪ヒ入内日花門 日花門外ヨリ主鈴
敷改門外ヨリ下ス 長樂門外ヨリ下ス
東門ニ立内面ノ主鈴田布ニ有ル座枕
ヨリ御印ホツ出早チ少納言主鈴ヲ
車ニ軒齊葉下ト云ハ侍從ニ行キ軒
廊ヲ去ル 三丈汗南巨陽殿地上ヨリ
一間汗西ニ侍立主鈴印託ラ云之少
納言ニ跪ヒ御印ホツ納ル乃格ノ東氏ニ
北面ス御印納メ託リ云之少納言ニ跪ヒ
日花門ヲ出ス 日花門ヲ入ルヨリ少納言主鈴
二人相対テ泣キ泣キ將望サ云
凡テ少納言主鈴將望サ
列ニ進退ス 大右所侍有ル
扱居侍伏跪テ両局ヨリ退出ツ泣キ
ナ細々身兩局ノ退至ヤキ自意善門
退出未列
太し 云々例證有ル 右所侍有ル
少納言上江侍從及里亭ノ云ホリ有リ
將望サ云々 右侍從人々有ル
少納言云々 右侍從人々有ル
云々 右侍從人々有ル

乙の... 〇... 〇... 〇...

て... 〇... 〇... 〇...

但宣政十年伏見... 〇... 〇... 〇...

大... 〇... 〇... 〇...

...

大... 〇... 〇... 〇...

...

大... 〇... 〇... 〇...

...

...

大... 〇... 〇... 〇...

...

...

大... 〇... 〇... 〇...

...

...

...

...

...

...

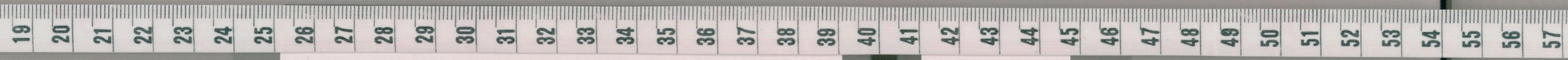
...

...

...

...

...



十二日 赤一り

赤一り

赤一り

赤一り

赤一り

赤一り

赤一り

赤一り

赤一り

赤一り

赤一り

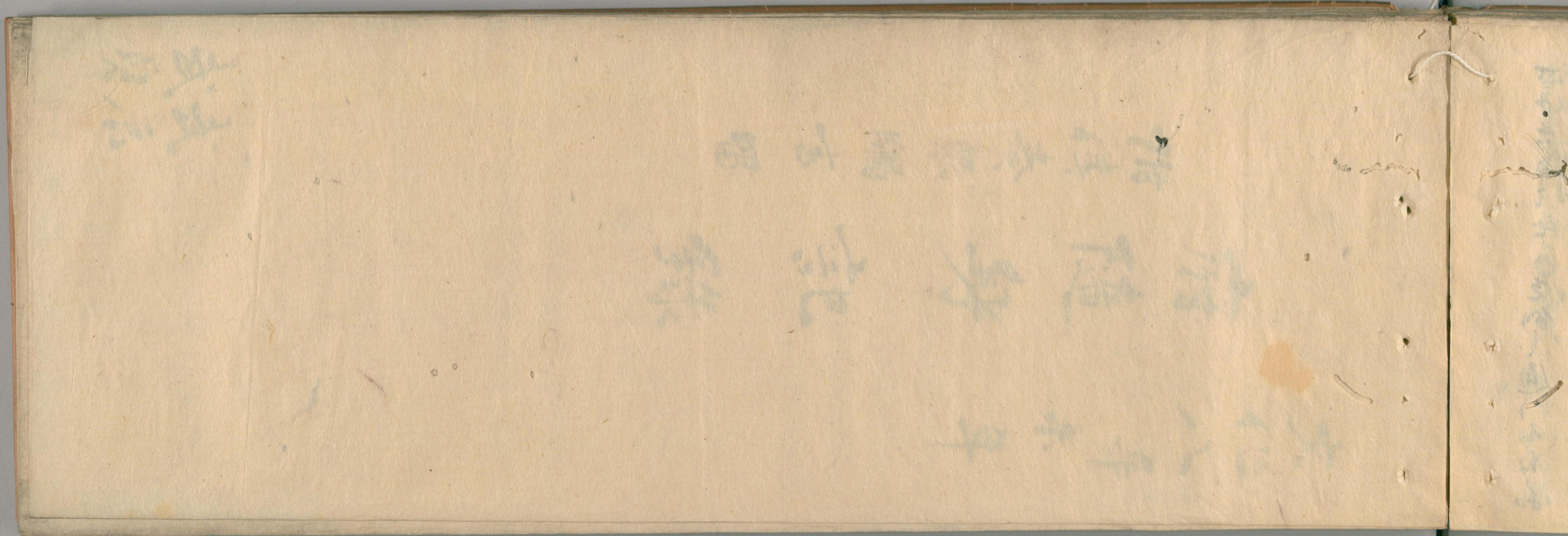
赤一り

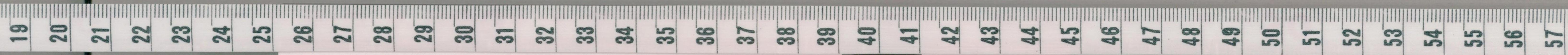
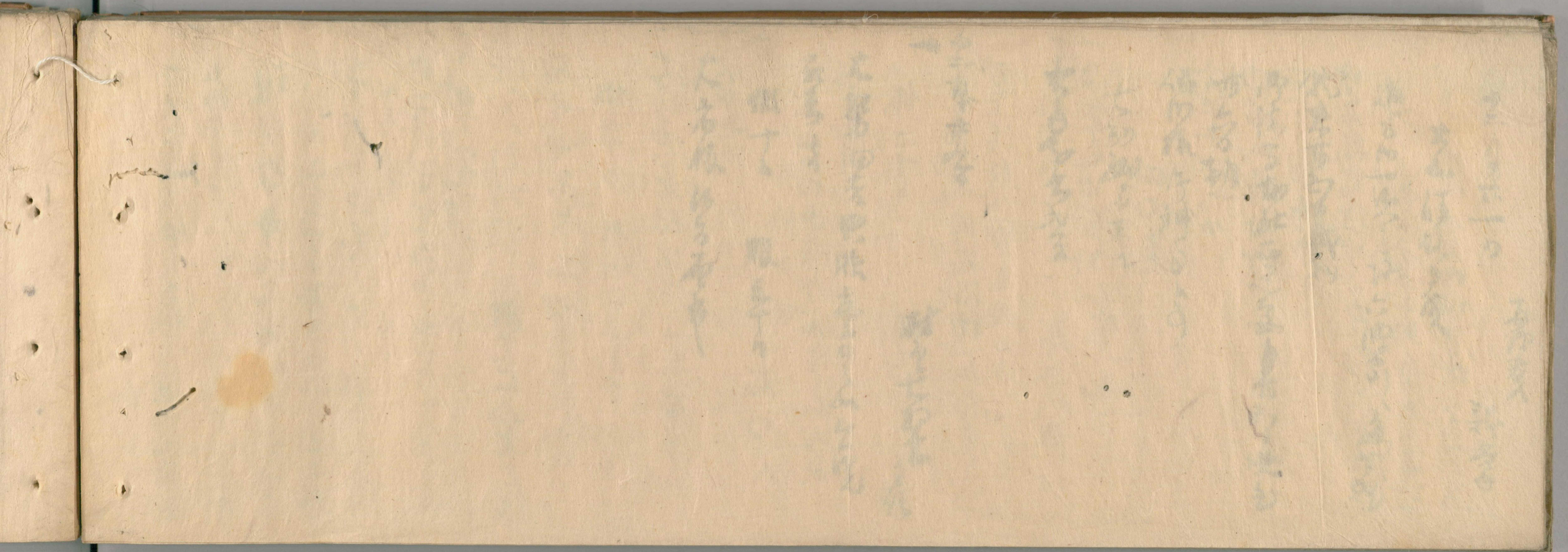
赤一り

赤一り

赤一り

赤一り





文正八年

府隨身記

附傳奏衆觸書留

武武
貞貞

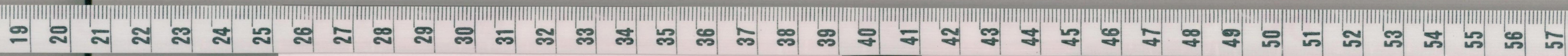


其何

其何

其何

其何



元り
一茂中四方海新

茂木左將監余昌
調子太座生武親

右通

一茂中四方海新

調子太座生武親
茂木左將監余昌
調子太座生武親

右通

一茂中四方海新

茂木左將監余昌
調子太座生武親
茂木左將監余昌

茂木左將監余昌
調子太座生武親
茂木左將監余昌

茂木左將監余昌
調子太座生武親
茂木左將監余昌

茂木左將監余昌
調子太座生武親
茂木左將監余昌

十二月



江蘇

列女之通西國者十有九焉
中有一女傳名曰仲尼
也

每行奏

序

雜考

上巳 漢詩 卷

此石一處之古蹟也

大考。考。考。考。

西

一七 年 月 日 家 祭 無 忘 告 乃 翁 之 意

來名也類之乃名之曰之

之
出

字亦不

[illegible]

東隱者也

土生

便位上太近
舊歷武現

徒位上左通郎如重案武靜

虎

遊下邳傳摩撫行

4

從六佐下右迎刺塵身了信之

大過之左大過之左

談士吏之治民所以

大石庵 此庵在
西田中寺內

系傳より口承より大分し下
知れ左の如くしるはに伝
他より所を中人の如く知れ
所の如くし

大分より口承より大分し下
知れ左の如くしるはに伝
他より所を中人の如く知れ
所の如くし

一 時傳より口承より大分し下
知れ左の如くしるはに伝
他より所を中人の如く知れ
所の如くし

一 時傳より口承より大分し下
知れ左の如くしるはに伝
他より所を中人の如く知れ
所の如くし

一 時傳より口承より大分し下
知れ左の如くしるはに伝
他より所を中人の如く知れ
所の如くし

一 時傳より口承より大分し下
知れ左の如くしるはに伝
他より所を中人の如く知れ
所の如くし

一 時傳より口承より大分し下
知れ左の如くしるはに伝
他より所を中人の如く知れ
所の如くし

一 時傳より口承より大分し下
知れ左の如くしるはに伝
他より所を中人の如く知れ
所の如くし

一 時傳より口承より大分し下
知れ左の如くしるはに伝
他より所を中人の如く知れ
所の如くし

序

高僧集

祖孝

馬溪石

追念一覽讀之痛感尤甚

紀州熊野郡聖新宮大腹（有金）
 多由是下主法寺也某部地以先
 秋作有山湯所内、故教方并西立
 共志く半々物く某ありきく此所
 寄進の由科を近役及科料に依りて
 増改並古社殿しとの疾通を乞
 以役及依りて地民は元來並向ふ
 以才江戶系大腹紀伊國伊勢縣
 申年十二月迄一丁五名以上なり

年
土
月

十五五二

[illegible]

いふはく人馬あふくは公望
いふはく新しき道なき定事
了事

右に通ちあ海道中より中国
西國所伝糖有し面より其
糖

二月

大あひのあひ

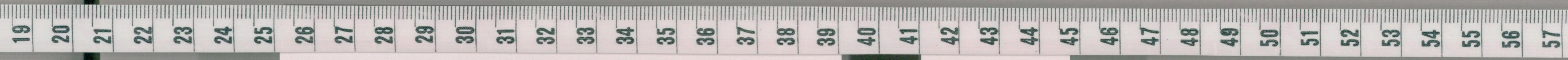
方中
一竹素衣ふ船より花

若くは持しより山外なる
也之出しより山外なる
りははるより山外なる
りははるより山外なる
りははるより山外なる
りははるより山外なる

ちとあひのあひ
右通ちあ海道中より中国
西國所伝糖有し面より其
糖

方中
一竹素衣ふ船より花

上法候七段



退而後之
之

[illegible]

五十六

[illegible]

此書之在江陰者當為今十有餘年

予知本年三月中旬
东去仰乞服侍

之性生系初之
增之
傳奏

大節處
其
轉尾
即中
其
其
其
其

卷之六

借古齊孫
閔子孫
借古齊孫
耳

大石就之成五石成之也石就壽記

七

一、衣
師之服
衣侍
及并

所當以法進退是惟
未先例

お知、得た事
世に響尾に才あり

先生為不衣侍并芝蘭收此之

乃新
史
書
卷
之
一
上
卷

百亦

一
明
嘉
泰
沙
美
在
所
為
四
和
年
此

左

聖賢生於世者亦必於二氣中

花城如海鳥居如市形如沙
山如雲如日如天如地如
市如木如石如土如金如
下如土如木如石如土如
金如木如石如土如金如

三才

事門新記

庄田中帶水

唐詩集

臨江府志

晴窗立看
芝山氣
入江山
芝山氣
入江山

此乃楊采山所寫五言詩一首
心之所在即知之而無礙於中
而

大分県立中央図書館蔵
大分県立中央図書館蔵

方希

一
聖
德
無
量
功
高
四
海
名
震
五
洲

[illegible]

中印

高士傳

方

寛政九年
野村格書

水
入に

奥
無母

早に面使うも
中

大入に
年

二
方

一
即元服

一
元服

一
冊

一
達

一
室

一
之

主
二

一
壬午年十二月

一
宣下

一
山口

一
和

十
方

一
山

一
お

一
ま

一
但

一
方

壬子の年
一 侍者元へ 能くゆすめ元

はた

大いなるは常いのもう
けりあふ入るうううけりて
やううあつたあめあつた
ゆいふふふふふふ

壬子の年

あつた
新

あつた

あつた

あつた

あつた

一 東主の服三月十日の
定いふあつたあつた
あつた

一 衣之服あつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつた

あつた

あつたあつたあつたあつた

あつた

あつたあつたあつたあつた

あつた

あつた

あつたあつたあつたあつた

假
子
b

腹中

大通名所出

卷之六

一、東主即元服而仕者設試
初及第
名爲名仕也
如所
中
而
列
爲
要
細
更
博
正
記
於
錄

子

一、主而充服并宴舍內見衣
可別者衣衣在出歸至可別
委細更作各記、少記

子

一在人所欠服牙身欠之身牙到
在眼面牙到身身牙到
進退作身牙身巨
服牙到身牙

三
十
一
日

一、五、十、百、千、萬、億、兆、京、垓、秭、穰、溝、澗、塵、沙、阿、僧、那、由、他、舍、沙、多、無量、阿僧祇劫。

子方印

一 傳 奉 元 年 能 名 初 本 以 元

二
木

此本古
東坡文
字集卷之四

竹筴長古味
此亦吾年刻

河塘

中書省大司馬平侯王侯府志

三ノ木

五世續
新孝

玄

此の日記は、禁裏御所御用日記の
大のちのちのち

三つあり
一、此の日記は、禁裏御所御用日記

口状

乾来月十四

賢者自來月十四

神事自來月十二

十四

神事無

仙洞自來月十二

十四

中宮様自來月十四

未月十四

服をまゐりしは、神事無

神事無

神事無

三月廿七

自休奏

新書

土佐派書

追々、一、漢後、二、像、三、

神事、一、神事、二、

一、神事、二、

一、神事、二、



大宴方兄方未方必病等
明世年三月

一假二十日 服九千日

大も通肩候に足種不致と有

なり

一侍妻六膳お高と取新き

お高は快多し方てお高と有

お高は申法多し性多し年長

お高は主上四性多しお高は

お高は建城多し又一徳多し

お高は子多しお高は子多し

お高は子多しお高は子多し

なり

一室多しお高は子多し

お高は子多しお高は子多し

お高は子多しお高は子多し

お高は子多しお高は子多し

お高は子多しお高は子多し

お高は子多しお高は子多し

お高は子多しお高は子多し

お高は子多しお高は子多し

お高は子多しお高は子多し

お高は子多しお高は子多し

お高は子多しお高は子多し

お高は子多しお高は子多し

お高は子多しお高は子多し

お高は子多しお高は子多し

子

不知子孫其由德也哉世子孫
其何方之而後之而往今年通德
鄉之市改爲市街重六樓以爲
出所以德也

二月十日付書
 老翁奇特
 三村大
 五村大
 金小
 性
 九
 通
 序
 新

臣上

考る家持との知りやありと
 上書年^高の直^高年^高の知^高の^高の^高
 増^高の^高の^高の^高の^高の^高
 直^高の^高の^高の^高の^高の^高

未
解

王

多信者希

漢以古聖而後

樂山方勝集

六條坊

山陽先生

牛氏揚

[illegible]

ありき

親王の御
御

大業の御
今受ふに

服
服

大業の御
不遇の御

ありき

一車十六日 知恩院二品^{入通}宣旨^統

親王贈一品 宣下^{宣下}位記^{宣下}

印方^{印方}将監^{将監}系^系降^降任^任行^行能^能尾^尾

印方^{印方}族^族正^正清^清予^予内^内信^信南^南全^全

右姓^{右姓}三^三金^金三^三命^命三^三毫^毫左^左能^能尾^尾

正解^{正解}三^三治^治印^印一^一命^命系^系動^動能^能尾^尾

右方^{右方}未^未三^三漏^漏方^方一^一身^身付^付交^交姓^姓可^可

お給^{お給}方^方三^三治^治印^印一^一命^命系^系動^動能^能尾^尾

三^三治^治印^印一^一命^命系^系動^動能^能尾^尾

吉文^{吉文}方^方三^三治^治印^印一^一命^命系^系動^動能^能尾^尾

三^三治^治印^印一^一命^命系^系動^動能^能尾^尾

三^三治^治印^印一^一命^命系^系動^動能^能尾^尾

ありき

一^一車^車十六^{十六}日^日 知^知恩^恩院^院二^二品^品宣^宣旨^旨

親^親王^王贈^贈一^一品^品 宣^宣下^下位^位記^記

印^印方^方将^将監^監系^系降^降任^任行^行能^能尾^尾

印^印方^方族^族正^正清^清予^予内^内信^信南^南全^全

右^右姓^姓三^三金^金三^三命^命三^三毫^毫左^左能^能尾^尾

正^正解^解三^三治^治印^印一^一命^命系^系動^動能^能尾^尾

右^右方^方未^未三^三漏^漏方^方一^一身^身付^付交^交姓^姓可^可

お^お給^給方^方三^三治^治印^印一^一命^命系^系動^動能^能尾^尾

少卿者下上卿也 聖の爲に
意大物に付大卿と及、
少卿十連は耳を又移す
三武臣四王 仁和と云ふ
定下少卿仙居をきく

九月十一

打田右の足利

大書明西卿死す

假二十 服九 假釋

門下の者事候

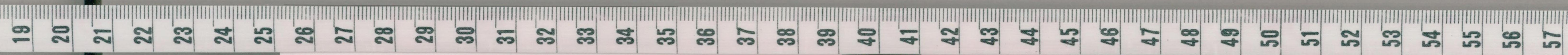
大母明西卿死す

假五十 服十三 假釋

大母方

九月十三

一、少卿大物に付大卿と及、
少卿十連は耳を又移す
三武臣四王 仁和と云ふ
定下少卿仙居をきく
九月十一
打田右の足利
大書明西卿死す
假二十 服九 假釋
門下の者事候
大母明西卿死す
假五十 服十三 假釋
大母方
九月十三
一、少卿大物に付大卿と及、
少卿十連は耳を又移す
三武臣四王 仁和と云ふ
定下少卿仙居をきく
九月十一
打田右の足利
大書明西卿死す
假二十 服九 假釋
門下の者事候
大母明西卿死す
假五十 服十三 假釋
大母方
九月十三



なりきり

一 何事か 觸之 必本之也

口杖

其多 何事か なりきり

何事か 觸之 必本之也

何事か 觸之 必本之也

何事か 觸之 必本之也

何事か 觸之 必本之也

何事か 觸之 必本之也

なりきり

何事か

新字

なりきり

何事か 觸之 必本之也

なりきり

何事か 觸之 必本之也

なりきり

なりきり

一 何事か 觸之 必本之也

口杖

何事か 觸之 必本之也

何事か 觸之 必本之也

何事か 觸之 必本之也

何事か 觸之 必本之也

何事か 觸之 必本之也

なりきり

何事か

新字

なりきり

何事か 觸之 必本之也



七

六

村中七の意

大婦留一才

平服強

七假正法釋

字彙

五口原集

清曉

大男小西元歸高平山此夜九年
大信降口唐年以得方在望

音

一、字、所、大、服、所、買、米、之、多、少、

七

石橋

法雅

大祖父の年人高き此世に

假三十日
服下

大音希聲

みんたを

不火にたてしむ

宣旨

大仙父の早人病に

假二十日 服九日

大元服に依て

入谷大と云々

長刺

大留より年人時長あはれ

假十日 服三日

大元服に依て

大元服に依て

一は

一は

に

大元服に依て

大元服に依て

大元服に依て

大元服に依て

大元服に依て

大元服に依て

大元服に依て

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

子

任臺方寫系
為希方
世沒名不勝

江
北
走

此江勢倒勢自本亦多使所望云
自本月九日使至十日止
所望亦自本月九日使至十一日
止
此江勢倒勢自本亦多使所望云
自本月九日使至十日止
所望亦自本月九日使至十一日
止
此江勢倒勢自本亦多使所望云
自本月九日使至十日止
所望亦自本月九日使至十一日
止

日

游夢

耕子

王汝賓

進中一乃已斜

大石の如く
初めは
2355
之例より
川中
M
P
光

十

一、改修牙牛生、改修語苑、改修性前、
お仕、之、何、初、常、牙、牛、名、借、臺、之、座、於、
馬、如、之、山、海、田、若、紙、

すゝめ

字目在土の成る所因に多岐を
 今、成らざる成る名作を更らふ

三宅左衛門

入在左下

大坂より上る中絶、行幸御
うはり申上り、是月内、是月
十日の辰刻、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、

大坂より上る中絶、行幸御
うはり申上り、是月内、是月
十日の辰刻、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、

是月、是月、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、

大坂より上る中絶、行幸御
うはり申上り、是月内、是月
十日の辰刻、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、

大坂より上る中絶、行幸御
うはり申上り、是月内、是月
十日の辰刻、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、

大坂より上る中絶、行幸御
うはり申上り、是月内、是月
十日の辰刻、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、

大坂より上る中絶、行幸御
うはり申上り、是月内、是月
十日の辰刻、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、

是月、是月、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、

大坂より上る中絶、行幸御
うはり申上り、是月内、是月
十日の辰刻、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、
是月、是月、是月、是月、



一月十日言ふ所ふ十言給ふ所
此の如く経緯する

一月十日言ふ所ふ十言給ふ所
所望地内所在は神並に神事
化を待たざる

但し祈禱のふくむべき神事には
及ばざる事なり

一方、神の神事なる事ありて
此神の神事なる事ありて
なり

一月十日言ふ所ふ十言給ふ所
十言の如く神事なる事ありて
此の如く神事なる事ありて

一月十日言ふ所ふ十言給ふ所
此の如く神事なる事ありて
此の如く神事なる事ありて

一月十日言ふ所ふ十言給ふ所
此の如く神事なる事ありて
此の如く神事なる事ありて

一月十日言ふ所ふ十言給ふ所
此の如く神事なる事ありて
此の如く神事なる事ありて

一月十日言ふ所ふ十言給ふ所
此の如く神事なる事ありて
此の如く神事なる事ありて

一月十日言ふ所ふ十言給ふ所
此の如く神事なる事ありて
此の如く神事なる事ありて

一月十日言ふ所ふ十言給ふ所
此の如く神事なる事ありて
此の如く神事なる事ありて

一月十日言ふ所ふ十言給ふ所
此の如く神事なる事ありて
此の如く神事なる事ありて

此より一巻の事

上より下へ

上より下へ

大正四年正月六日

大正四年正月六日

大正四年正月六日

大正四年正月六日

大正四年正月六日

大正四年正月六日

大正四年正月六日

大正四年正月六日

大正四年正月六日

大正四年正月六日



出づる一は、わに、海に、あそぶ、

大なる、の、ひ、あそぶ、

十二月、

一、傳奏元、編去、集、加、元、

當六月、其、信、別、水、内、那、解、告、
以、村、内、二、石、新、田、石、親、長、
と、切、敷、迹、去、八、在、人、相、書、

一、年、齡、四、拾、六、歳、

一、生、國、信、別、水、内、那、解、告、以、村、内、
二、石、新、田、

一、中、也、い、大、う、い、う、

一、面、解、た、く、鼻、筋、を、う、疤、痕、
く、仍、有、し、

一、月、大、子、う、う、

一、年、常、解、

一、素、量、捕、ひ、云、舌、分、り、い、う、

一、髪、質、厚、く、サ、ー、白、毛、有、く、

一、額、ぬ、き、こ、り、い、う、

一、眉、毛、常、解、

一、膝、厚、く、い、う、

一、子、女、天、賦、不、眉、目、肌、に、あ、る、云、云、

右に起し、其の終り、一八五
 歳、金部科、元、所管、私領、と
 願、と、地、政、と、出、ま、り、於、此、
 川、若、く、寺、法、を、新、ら、て、
 若、及、見、聞、い、つ、其、所、を、
 正、家、具、又、も、の、不、通、入、
 味、に、通、一、途、暢、より、
 一、つ、て、為、曲、事、い、
 6

來月

三

別後、迄武進、乃中、來、以、
冒、為、志、於、中、以、有、而、信、中、
年、如、所、以、不、出、仲、冒、中、反、成、
永、和、遂、以、之、

十二月
五儒
韻

古之所謂

延石山覽後六條歌古再一

右漢中水經六卷

七

一
事
九
方
物
中
第
一
品
宜
下
身
後
印
方
一
品
除
情
留
明
者
姓
名
一
多
本
年
力
不
單
欲
在

比叡東海道園定園窮分人

馬印法刻増たし通法取
る中波

三月八日宣三日迄

拾年、内人馬印 東海道

法武刻増中分書

外郎又本申同分

周客

三月迄西暦年しるこ

刻増於全不刻増

右し通刻増法、波りて此

右し起向し、て此れ觸れ

未

十日

口上

別紙を通し、通武色より、米
月為心、つて、入る、あ、つ、
わ、つ、む、仲、つ、中、ん、あ、つ、
つ、

三月廿六日

あ、つ、
あ、つ、

新、つ、

土山、つ、

通、つ、

つ、

右、つ、

一、つ、

あ、つ、

太、つ、

假、つ、

假、つ、

銀十兩

銀三十兩

大島服退解不仕

二口にたきき
住峰

大島通ふたきき世書にきり

銀三十兩 服九十九

大島服退解不仕

大島服退
住郁

納めきき
房藏

大島通ふたきき世書にきり

銀三十兩 服七十九

大島服退解不仕

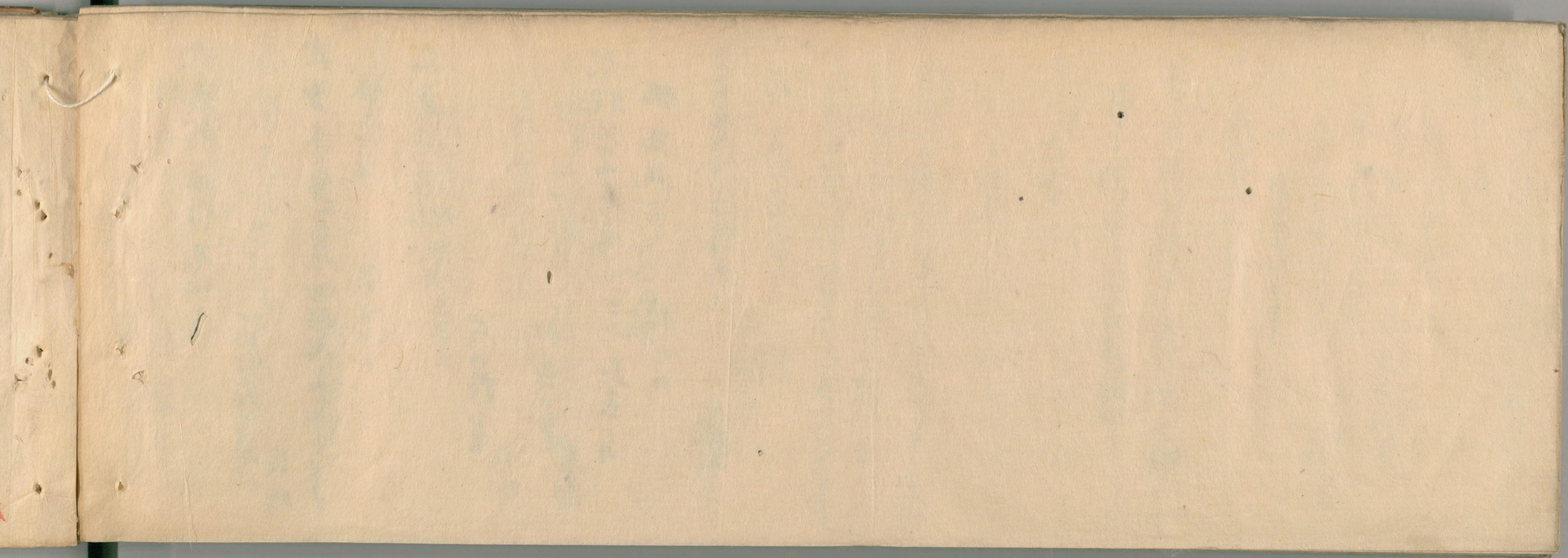
大島通ふたきき

Handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style, likely a diary entry. The text is written on aged, slightly discolored paper. The characters are dark and fluid, typical of the Edo or Meiji periods. The entry appears to be a personal record, possibly related to the title '禁裏御所御用日記' (Imperial Palace Diary).



禁裏御所御用日記
附録
明治二十九年





国立国会図書館 タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用

三〇

文治九年

府随身日記

附傳教宗解書

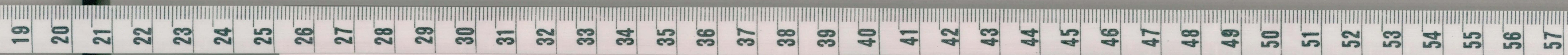
武辰

禁裏御所御用日記

禁裏御所御用日記

禁裏御所御用日記

禁裏御所御用日記



元日

入

一院中四方拜祭部

お上りお書法
お上りお書法

右に通

一院中白き 御書部

お上りお書法
お上りお書法
お上りお書法
お上りお書法

右に通

一院中白き 御書部
お上りお書法
お上りお書法
お上りお書法

右に通

一院中白き 御書部
お上りお書法
お上りお書法
お上りお書法

右に通

正位下左 御書部 御書部

正位上左 御書部 御書部

正位下右 御書部 御書部

正位上右 御書部 御書部

たしめしき方々を承りて事多し
主君の御成程より
諸事おぼやかし

一 傳中平年終二月一日改元
はてしなく御成程より

一 御成程より
御成程より

日状

御成程より

御成程より
御成程より

御成程より
御成程より

御成程より
御成程より

御成程より
御成程より

御成程より

御成程より
御成程より

御成程より

御成程より

御成程より
御成程より



いふ方々にはある所はたぬるを
いふ所にもとまらぬ方々へ
いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、
いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、

いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、
いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、

いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、

いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、

いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、
いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、
いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、

いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、

いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、

いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、
いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、
いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、

いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、
いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、
いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、

いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、
いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、
いふ所、いふ所、いふ所、いふ所、

雅ホナカ中あはれあゝのふかき
のりきと

二りき

新屋の松大井ふあ
まのたまふ
あはれあゝのふかき
まふたふあ

あまふあ
まふたふあ
まふたふあ
まふたふあ

あまふあ
まふたふあ
まふたふあ
まふたふあ

あまふあ
まふたふあ
まふたふあ
まふたふあ

二りき

あまふあ
まふたふあ
まふたふあ
まふたふあ

あまふあ
まふたふあ
まふたふあ
まふたふあ

二りき

あまふあ
まふたふあ
まふたふあ
まふたふあ

あまふあ
まふたふあ
まふたふあ
まふたふあ



大田原の
はあふち

大田原の
あふち

大田原の
あふち

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

大田原の

能事方者

若延主を幣奉~~る~~ひて月廿

六日卯正午時 卯時

中宮様太 御中 中宮様

賜~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~

とる御~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~

とる御~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~

三つち四つ

あはれ
御~~る~~ふ~~る~~

ちんぽみち

時~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~

ちんぽみち

ちんぽみち

ふん~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~

大い御~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~

あはれ御~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~

ちんぽみち

一御~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~

にん

ちんぽみち

あはれ御~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~

ちんぽみち 御~~る~~ふ~~る~~

あはれ御~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~

ちんぽみち

あはれ御~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~

あはれ御~~る~~ふ~~る~~御~~る~~ふ~~る~~



あつたひつゝのふあひさすのふ
むの仲り中さういふふさういふ

あひさす

よりあひ

新書

あひさす

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

あひさす

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

あひさす

あひさす

新書

あひさす

新書

あひさす

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

あひさすのふあひさすのふ
あひさすのふあひさすのふ

七智公の御本なる傳説概本
御書に因りて記す

中

一傳説に及ぶ事多し其の
なりを記す由伝言事多し
る事如由性多し其の
なりを記す事多し其の
なりを記す事多し其の
なりを記す事多し其の

十

一知れざる事多し其の
なりを記す事多し其の
なりを記す事多し其の
なりを記す事多し其の
なりを記す事多し其の

一聖賢の御本なる傳説概本
御書に因りて記す

一知れざる事多し其の
なりを記す事多し其の
なりを記す事多し其の
なりを記す事多し其の
なりを記す事多し其の

一聖賢の御本なる傳説概本
御書に因りて記す

一知れざる事多し其の
なりを記す事多し其の
なりを記す事多し其の
なりを記す事多し其の
なりを記す事多し其の

一聖賢の御本なる傳説概本
御書に因りて記す

一知れざる事多し其の
なりを記す事多し其の
なりを記す事多し其の
なりを記す事多し其の
なりを記す事多し其の

高唐寺觀音殿

一
子
不
法
然
少
介

[illegible]

一、
西
加
角
列
列

[illegible][illegible]

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

[illegible]

[illegible]

知不足齋

買

石九中

采石

[illegible]

印

西陵

臨脚寺

四下

步所

田知家

四
七
五

山陰

同
下
缺

卷之四

印

舞人臨渡

日下

右三條

宋王

有知也

知也

天

之

酒堂

同

同中

望

中
胃

寶號

西

乃其自而

上 方 有 名 之 子 矣

石

竹書子方

田中

送王仲文

井上丹徒

初所
為

補正

卷之四

山田利義

陸堅少

井上

中

少府君後

大
海
小
屋

杜上河

密田李氏

臨解

日知錄

臨解國瑞

口如門

卷之六

六月
一傳奉命下輔政事如左

日状

東七月

小野大満宮に遷宮日時定
陣儀迄上る暇もする年刻
御神事

中宮様下御神事申儀
自怪服も多入る御神事
此心にて入るも御神事
此心にて入るも御神事

六月
与御神事
御神事

去法政事

此心にて入るも御神事
此心にて入るも御神事
此心にて入るも御神事

二月

去法政事

去法政事
去法政事
去法政事

去法政事

去法政事

去法政事

一 御書に 融ちるまゝ元

に 世

一 融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

融ちるまゝ元

高麗中世而下
 武備漸廢
 方、挑令四守之
 牙、少歸互一防
 牙、不為而
 牙、不為而
 牙、不為而

五古
五言古詩

一
 此乃古之所謂
 中久矣
 此乃古之所謂
 中久矣
 此乃古之所謂
 中久矣

一、五に大分と太一件内縁を問ふ
妻理よりり宛書在る家
は都より宛てた太内法を問ふ
以上より多六條を八人計
左の件も所せぬ方妻理
力し、年郭よりなる
は一、二入江
山崎松平より

のまはつて入るゐる侍
りふをわたり不方し
りてふとあはれと

古月丁巳
西條
雅孝

山法海と云

此の山法海と云は
一山法海と云は

凡そかゝるは

七のち

山法海と云は
西條
雅孝

大従六位上

宣下るる

七のち

何と云ふか

高三月三日
言ひ出さるる
田下

一年に

一

一

一

一

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

申

七月

正

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

五

七

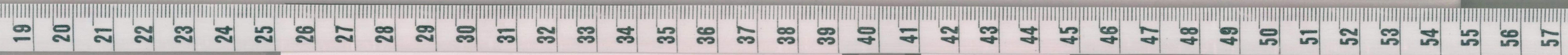
新

七

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方

一 髪も月夜石を原き方



いりす
いりすゑ、能くみえ

是

能くみえ、能くみえ、
かたのむ、能くみえ

いりす、能くみえ、
いりす、能くみえ

いりす、能くみえ、
いりす、能くみえ

いりす、能くみえ、
いりす、能くみえ

いりす
いりす、能くみえ

いりす、能くみえ

いりす、能くみえ、
いりす、能くみえ

いりす、能くみえ

いりす

いりす、能くみえ

是

いりす、能くみえ

いりす、能くみえ

いりす、能くみえ

いりす、能くみえ

萬心好平入寺 萬心好平入寺
 萬心好平入寺 萬心好平入寺

四百三

五

王

三石齋

張子好六世家

三

七の五五

五

一、此書乃公
卿之書也

尚方督京木匠所二架

半日遊園在石肥溪玉鑑亭

米也所市原屋幾十口に
五疋

力負新嘉坡人信之

此果能令全天下
治平人

相公

一生至肥後國熊本全區所

一年計三石歲斗

一 中脊背 骨 節 高 々 方 爲 肉

なり

二面作云々也

[illegible]

一、鼻部通氣之方

一葉并拂い少名

一、月代方作暖房法方暖云々
一、五右衛門為方兼此方

五和飛少散乃而止為紐本錦

右通者於書之

而直つりて、事知可なる所

下は居ぬ足すなりと云

常生以臨之
至服方知

卷之四

申
二月

秋

別紙通致可中未爲力也
 下与古傳書付也此等
 中より下紙等並

ハナハナ

與儒矣

壯奇

王侯將相

追尋此流後之條最以也

三

大前田 昌高

平口

[illegible]

天

乳 何物例等は事方多き

神 神より事いふ事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

神 神より事いふ事

かゝる事

一代奉へし降及ふゝあはれと云ふ事
あはれと云ふ

作樂比内なるもの言方難
き天の四年三月に
通程又のまねをたし

はれ山仲らふもの言方
ちいさ(書)のまねをたし
はれ山仲らふもの言方

一府後平字つ入叔元後
他別調事お解多はま
あはれと云ふ

一府後平字つ入叔元後
他別調事お解多はま
あはれと云ふ

大分正正後下遷任た
あはれと云ふ

一府後平字つ入叔元後
他別調事お解多はま
あはれと云ふ

大分正正後下遷任た
あはれと云ふ

大分正正後下遷任た
あはれと云ふ

一府後平字つ入叔元後
他別調事お解多はま
あはれと云ふ

大分正正後下遷任た
あはれと云ふ

新嘗祭後未二年月曜

御中へ後未月亦日曜果之

御

御徳所の日重殿在法中へ

未月日曜丁未傳の

一後未方々言ふ所玉其方於西并

佛車於清淨止す事

一後未方於所記其方於於時

清浄地へ向傳尼法神是

石傳へ家傳及傳止し

此より於傳作あり人伝傳へ

住友のりて未苦事

一火用如く後方へて未中竹傳

以て清浄事へて如所記

て其方記

一後未月二

春日外へ後四月方記記

後未月二

新嘗祭後未月傳其時

其方記

其

仙洞様清浄の事

一其方記後未二年傳其時

其方記傳に主傳後未

傳のりて其方記

其方記のりて其方記

其方記のりて其方記



船

正德九年

此後漢書卷之八

卷之五

七角の虫々々々



卷之五

山田初子

公方電報

高麗毛虫

大時帝石方以陸名解中

中
新
日
本
新
報

中の旗
上
下
に
も
紐
い
ち
り
の
年

公古風之義氣高古

しきりて又ふとてふ

大田孝也書所記

卷之五

三

古



卷之五

上面乃是古為

大業五年
行幸供

1502

行
物
比
中
五

事なりゆきふしむるに

但此乃以中乃之玉上乃

他は...
...
...

大いなる...
...
...
...
...
...

...
...
...

大いなる...
...

大いなる...
...
...
...

大いなる...
...
...

大いなる...
...
...
...
...
...

大いなる...
...

大いなる...
...

...

大いなる...
...



心遣ふは心遣ふなりと云ふは
心遣ふ

一 我々十人 心遣ふは心遣ふなり
心遣ふは心遣ふなり

心遣ふは心遣ふなり
心遣ふは心遣ふなり
心遣ふは心遣ふなり
心遣ふは心遣ふなり
心遣ふは心遣ふなり

心遣ふは心遣ふなり
心遣ふは心遣ふなり

心遣ふは心遣ふなり

心遣ふは心遣ふなり
心遣ふは心遣ふなり

心遣ふは心遣ふなり

心遣ふは心遣ふなり
心遣ふは心遣ふなり

心遣ふは心遣ふなり

心遣ふは心遣ふなり

心遣ふは心遣ふなり
心遣ふは心遣ふなり

心遣ふは心遣ふなり
心遣ふは心遣ふなり

心遣ふは心遣ふなり
心遣ふは心遣ふなり

心遣ふは心遣ふなり

心遣ふは心遣ふなり
心遣ふは心遣ふなり

心遣ふは心遣ふなり
心遣ふは心遣ふなり

あはれにまじりておぼえしやう

悔かたきことなるはなはた

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

あはれにまじりておぼえしやう

そふ死私腹より凡そ功成ち杜腹より
白雲の代官に以て此の如く取集る
しう来れき事りと所記傳やとるん
て方おも也

中
本

右の如く記し方てしにうて

一 諸王荒れを名押底に中らむ腹
さ下有り記を安んず白坂より
松よりう大坂細衣より入
け月を安んず口より中しより
三貴府より代官を安んず切より
大坂長崎位より安んず口より
是又品とて極多しといふ傳は坂
新祝に松と坂間より安んず口より
坂より代官を安んず口より
安んず口より安んず口より
てお坂より大坂間より安んず
多しといふていふ安んず口より
安んず口より安んず口より
是又代官より安んず口より
お坂より間より安んず口より
いふていふ安んず口より

右の如く記し方てしにうて
初九から荒れより安んず口より
いふていふ安んず口より

十一

以狀

別紙之通、在武進より中津より
力出たり、事入るも、何れも、何れも、
其を以て仲乃申上、度、之、何れも、

し

上り、

あはれ

新書

七、八、九、十、

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此、

し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、

七、八、九、十、

し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、

あはれ

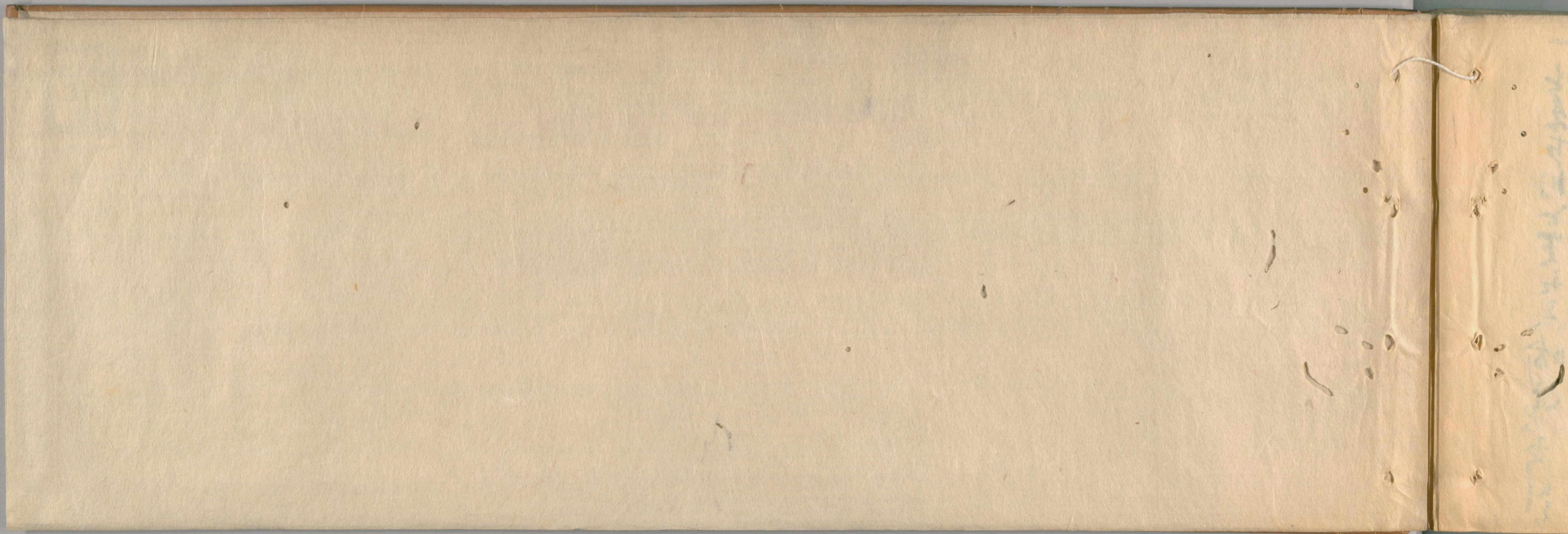
村田左衛門

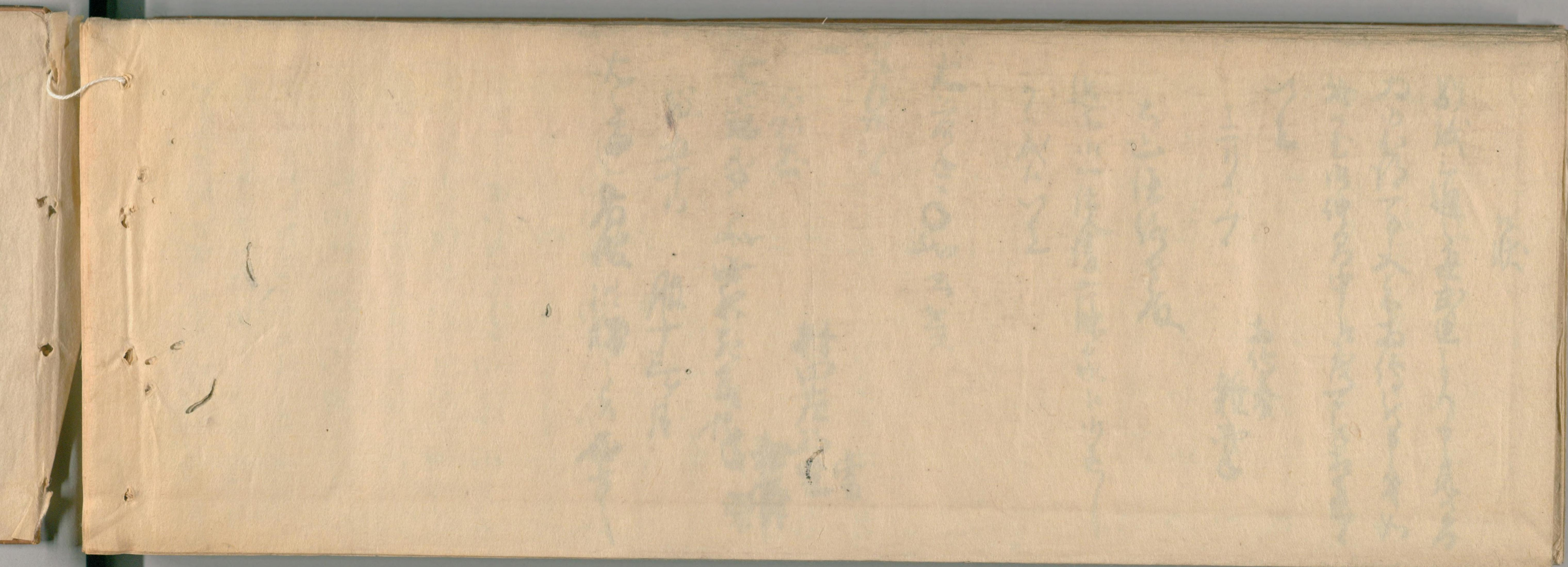
七、八、九、十、

し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、

あはれ

七、八、九、十、





826
371
91

19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

国立国会図書館 タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用



国立国会図書館

タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用